

障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	知的障がい（B2）

2. 職場情報	
業種	サービス業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	6時間／日
実習内容	バックヤードでの商品管理		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> 本人はコミュニケーションにおいて臨機応変に対応することを苦手としているため、接客業ではなくバックヤード業務を行うことを提案した。 自発的に取り組めるように、本人専用の作業工程表の作成を提案した。 		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 気になったことや、わからないことがあっても慣れない相手に自分から話しかけることが難しいので、いつも近くにいる現場の職員を担当者に固定した。 本人専用の作業工程表を作成して作業をしながら見やすい位置に掲示した。 		

4. 就職後の様子	
仕事内容	バックヤードでの商品管理
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジトレーニング時と同じ業務で雇用した。 本人専用の作業工程表は、文字よりも視覚的にわかりやすいほうが理解しやすいことが分かったので、写真を用いて作成し、作業の進め方を自身で確認して取り組めるようにした。
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> 本人の様子や現場での評価、課題の確認のため、雇用当初は週に1回程度の現場訪問を行い、企業と本人共に慣れてきた就職後1ヶ月後から月に1回の訪問にした。 職場において、本人への対応が困難な際は、支援機関に連絡するよう伝えた。
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジトレーニングを通して本人と直接関わるができるので、本人の不得意とする部分がわかり、雇用後の不安軽減に繋がった。 チャレンジトレーニングにおいて、本人の特性に合った業務が見つかったので雇用へと繋がった。